



# 謹賀 新年



明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は市政運営に絶大なご理解、ご協力を賜りましたこと、心から感謝申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、1年を象徴する漢字「災」のとおり、全国各地で大規模な自然災害が発生した年でありました。被害に遭われた方々に慎んでお見舞いを申し上げます。

本市におきましても、台風24号接近時には須木・野尻町地区を中心に、完全復旧まで数日を要する停電が発生し、市民生活に大きな影響が生じました。新燃岳・硫黄山の噴火もあり、あらためて防災対策の重要性を痛感したところでもあります。現在、市内全域を対象とした防災行政無線の整備に向けた準備を進めております。災害はいつどこでどのような形で発生するか予測できない状況にあります。防災・減災にあたっては、公的機関（公助）による対策だけ

でなく、一人ひとりが防災意識を高めること（自助）や地域の支え合い（共助）が大変重要であります。家族や地域での話し合いなど、日頃からの備えをよろしく願います。

西諸地域で安心して出産できる体制を確保するため、昨年7月、小林市立病院に県外の医療機関に勤務されていた西諸地域出身の産婦人科医師に着任していただきました。新年からは宮崎大学医学部に加え、新たに県立宮崎病院からのご支援もいただけることとなり、実に15年ぶりに市立病院で赤ちゃんの産声を聞くことができます。誠に喜ばしいことでもあります。今後とも西諸医師会をはじめ、関係機関との連携に努めてまいります。

本格的な超高齢化社会が到来し、いまや人生100年時代と言われております。本市におきましても100歳以上の先輩方が多くいらっしゃいますが、お元気な皆さまとお会いするとき、健康長寿の素晴らしさを感じずにはいられません。日頃からバランスの

市民との対話を  
基本に市政を進めます。  
市長 高橋 義久

よい食事や運動など、健康を増進する生活習慣に努めていただくとともに、定期的に各種健（検）診を受診するなど、健康に留意してくださるようお願いいたします。

本年は平成最後、そして新元号として新たな時代の幕開けの1年であります。この大きな節目の年に、市政を担わせていただくことを光栄に感じるとともに身の引き締まる思いです。時代の変化のなかで複雑多様化する課題に対しまして、小林市の宝であります人財を活かすとともに限られた財源を有効に活用し、従来の手法にとらわれることなく、新たな視点も取り入れながら解決に努めてまいります。

市民の皆さまとの「対話」を基本姿勢として、全力で市政運営に邁進してまいりますので、皆さまの変わらぬご理解とご支援をよろしく願います。

この亥年が皆さま方にとりまして、素晴らしい一年となりますことを祈念いたしまして、新年のあいさついたします。